挨拶

自治基本条例を考える会 会長 岩原吉治

まちづくりの基本的なルールを自治基本条例という形にしていこうと、公募市民の 33 名で、昨年 3 月に自治基本条例を考える会がスタートした。全体会、分科会、役員会等合計 50 回をこえる会議を持ち、提言書がまとまった。

一年という年月を経て、委員の間にも相互の意見が言い合えるような関係がつくられ充実した議論ができた。が、その間に社会情勢も大きく変化した。当初は「県内の他の自治体のように財政が豊かであれば…」といった声も出たが、現在は、日本全国が深刻な経済状況に直面している。このように世の中が変わっていく中で、市民一人ひとりが行政に頼るのではなく、地域のこと、身近なことに気づいて、自分が何かできないかを考える。そんな中から一宮というまちをよくなり、他の市町村から羨ましがられるようなまちにしていきたい。

私自身も、当初からまちづくりに向けた強い意識があったわけではなく、新聞で公募委員の追加募集を見たのがきっかけだった。多くの委員も同様に、「自分に何かできるかな」が出発点である。一人ひとりの市民にそんな思いがあれば、まちづくりには誰もが参加できる。ぜひ自治基本条例が実現し、その条例が皆さんの生活の中に浸透し、また条例の精神が一人ひとりにとって自分のものとなるような時が来ることを期待している。

今日は、私たちの提案を聞いていただき、市民の皆さんとの共有の思いにしていきたい。と同時に、皆さんから補足、補強もしていただければと思う。私たちのすばらしい一宮を、さらによいまちにという思いがあれば、それは実現していくことができる。そんなまちづくりのスタートであり、ぜひ多くの市民の皆さんにそのスタートラインに立ってほしいと願っている。